

第3回おやじ日本山形大会(第16回全国大会)開催!

「これからの時代を生き抜く子供たちのために」

開催報告

おやじ日本山形代表 和田英光 (おやじ日本理事)

平成17年11月18日(土)第3回「おやじ日本山形大会」を開催しました。

「おやじ日本山形」を立ち上げてから8年7か月が経過しましたが、山形大会の開催は三年振り三回目となりました。今回のテーマは激変する世の中にあって、子供たちがこの時代を生き抜いていくためのエールを送りたいと思う気持ちから『これからの時代を生き抜く子供たちのために』というテーマで期待一杯の講演2本という組み立てで開催しました。今年の山形は冬の到来が早い感じで、雪の予報もあつたりで心配をしていましたが、有難いことに雪も降らず事なきを得ました。東京の本部からは竹花理事長をはじめ伊東副理事長、二村副理事長、小山常務理事、そして布村、浅野、石橋の各理事さんや会員の皆さんの総勢14名の参加で華を添えて下さいました。講師は「おやじ日本」のお仲間、白羽の矢を立てて口説き落とした現役バリバリのお二人、厚労省大臣官房生活衛生食品安全審議官の宇都宮 啓さん、そして文部科学省初等中等教育児童生徒課長の坪田知広さん。宇都宮さんは「子供と電子通信機器そしてゲームについての私見」坪田さんは「今こそ子供をど真ん中に据えた学校・地域社会へ」というテーマで熱いお話を展開して頂きました。宇都宮さんは4人、坪田さんは3人のお子さんを育ててこられたこともあって、理論理屈ではない生きたお話に会場との強い一体感を感じました。

会場にはお父さん、お母さんのご父兄をはじめ、学校関係者、母親委員会等の方々の参加も得て約200人を前にしての大変熱い大会となりました。

参加者からは懇親会の席上、「講師のお二人がわざわざテーブルに回ってきてくれて、気安くお話をしてくれてとても嬉しかった……」という暖かい声を聞くことが出来ました。「おやじ日本山形」では年間3回から4回の例会を柱に、目玉にしている「学校へ出かけようプロジェクト」を展開、小学生から専門学校生まで、また、ご父兄やPTA、諸団体に対し活動を続けていますが、先般、山形市内の中学校にて「心の原点:命の原点」というテーマで生徒とご父兄にお話をしました。あるお母さんからのお手紙には「今日はお話で涙しました。家に帰ってから生意気盛りの息子が障子の陰から”お母さん僕を生んでくれて有難う”と言ってくれました。嬉しくて涙が出ました……」と。「おやじ日本山形」はこれからもプラスの発想で前進していきます。

